

登山月報

世界選手権スペイン・ヒホン	1
世界選手権(ボルダリング)報告	3
第4回日中韓登山技術交流事業開催される	4
第71回 Mountain World	6
レーニン峰報告書	7
K7 遠征報告	8
位置探知機「ヒトココ」の貸出	9
新刊図書紹介	9
【提言4】登山届は必要ですか	10
JMA、寄贈図書、編集後記	10

世界選手権スペイン・ヒホン

安間佐千3位、小林由佳7位。視覚障害者部門で日本人男子、全階級制覇

9月8日から14日という長い期間で、世界選手権(リード)がスペイン・ヒホンで開催された。7日間という長い日程は、参加者数の増大を想定してのものであったが、いささか行きにくい場所(ヨーロッパ以外からは2回の乗り継ぎが必要)ということもあってか、男子リード74名、女子リード49名というワールドカップ並の参加者であったため、ゆったりとしたスケジュールでの開催となった。

8日はパラ(障害者)クライミングのメディカルチェックと、夜は開会式が行われた。参加国は38と、2年前のパリ大会の60ヶ国にはるかに及ばないものとなったが、ネパール、ペルー、トルコ、ポルトガルなどワールドカップでは馴染みのない国からの参加もあった。

9日はスピード予選。

10日は男子予選。日本人は安間佐千と是永敬一郎が通過した。

11日はパラクライミングの予選。日本人は7つのカテゴリーに参加、ほとんどが予選を通過した。

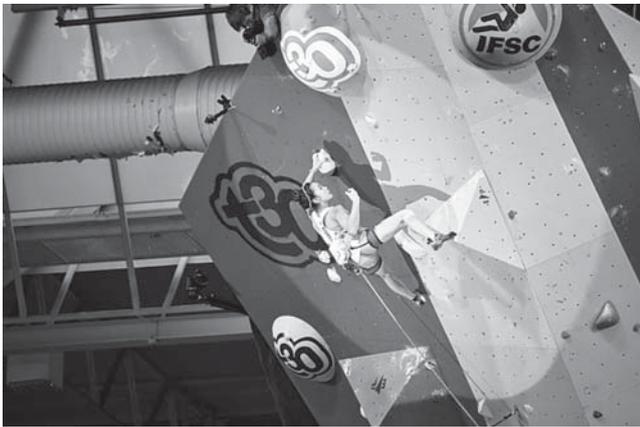
12日は女子予選とスピード決勝。女子は野口啓代、小林由佳、大田理紗の3名全員が予選通過。

13日はまず男女準決勝。安間佐千が3位タイ、小林由佳が7位で決勝に進んだ。夕方から行われたパラクライミングの決勝では、視覚障害者の3つのカテゴリー、B1(全盲)、B2(強い弱視)、B3(弱視)において、すべて日本人が優勝した。これはこれまでB2であった小林幸一郎がB1に移動したことが大きい。ライバルであった会田祥はB2のまま、それぞれ2位を大きく引き離しての優勝となった。

また、B3では健常者時代には5.14も登り、ジャパンカップでの優勝の経験も持つ蓑和田一洋が優勝した。女子はパリ大会では納得できないハンデにより予選落ちとなった前岡ミカが雪辱をはたした。



大会々場



ファイナル完登直前のキム・ジャイン

日本人初出場となった神経障害の категорияでは吉田藍香が決勝をみごと完登したが、タイム判定となり2位となった。

14日はいよいよ男女決勝。日本人の“世界選手権では勝てない”ジンクスが破られるか？ が安間、小林にゆだねられた。小林は中間部の大きなフレークをつかむ部分でフォール。結果8名中半分がここでフォールしたのだが、カウントバックで小林は7位のままであった。キム・ジャインがただ一人の完登で優勝。シンニン、アルコ、パリ、実に3大会の2位を経ての勝利。涙を拭うジャインに大きな拍手が送られた。

そして日本人すべての期待をその細い一身に集め、安間が登場。順調に高度を稼ぎ終了点直下でフォール、1位の成績だ。あとは、準決勝を完登している2名アダム・オンドラ、ラモン・ジュリアンが安間より下で落ちるのを待つ。しかしその期待はアダム（最終ホールドタッチ）、ラモン（その手前保持）には通じなかった。

この2年に一度の大舞台に世界中のトップクライマーが集中してきた。そこでの安間の3位という成績はもちろん祝福すべきものである。我々は多くを期待しすぎたのかもしれない。今は2年後のパリに向け、一步を踏み出すべき時である。

(文・写真=北山 真)



セミファイナルの安間佐千

大会成績			
男子		視覚障害男子B1	
1	アダム・オンドラ	1	小林幸一郎
2	ラモン・ジュリアン	4	岩本 謙司
3	安間 佐千	6	前岡 正人
—		視覚障害男子B2	
25	是永敬一郎	1	会田 祥
28	島谷 尚季	視覚障害男子B3	
35	大高 伽弥	1	藁和田一洋
女子		視覚障害者女子B3	
1	キム・ジャイン	1	前岡 ミカ
2	ミナ・マルコビッチ	視覚障害女子B2	
3	マグダレナ・ロック	4	青木 宏美
—		神経障害女子B	
7	小林 由佳	2	吉田 藍香
9	野口 啓代	神経障害女子A	
21	大田 理姿	5	前田 あみ
		片足男子	
		9	大槻 智志



金メダル4個、銀メダル1個を獲得した日本パラチーム

ネパールへ行かれるなら
風の旅行社名古屋にお任せ下さい

ご友人同士、ご夫婦等、あなただけのオリジナルプランをご提案いたします。勿論、現地では日本語ガイドががっちりサポート！是非、お気軽にご相談下さい。

株式会社 風の旅行社名古屋
愛知県知事登録旅行業第3-1367号 日本旅行業協会正会員
総合旅行業務取扱管理者 古谷 朋之
〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-12 サカエ東栄ビル6F

TEL 0120-987-321 FAX 052-228-6232 e-mail nagoya@kaze-travel.co.jp

**インカ・トレイル・トレッキングと
マチュピチュ、クスコ、ナスカの地上絵 12日間**

発着地 東京 旅行代金 ¥620,000

出発日 3/6(金)・3/20(金)・4/6(月)・4/25(土)・5/1(金)・5/18(月)

※燃油サーチャージ(2014年9月20日現在:目安約50,000円)が別途必要です。

インカ・トレイルは入山許可取得が必要となりますので、早めのお申し込みをお願いしております。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号 / 日本旅行業協会正会員 / ボンド保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

世界選手権 (ボルダリング) 報告

2年に一度のボルダリング世界選手権がドイツ・ミュンヘンで開催された。世界選手権のオリンピック種目ではない競技においてはもっとも評価の高い大会であり、オリンピックに準ずる位置付けともいえる。シリーズを戦うワールドカップとは違いたった3つのラウンド/人大会でそのタイトルを争うので、精神的なプレッシャーも高く、参加選手もこの大会に合わせてピークを持ってくる。今回は男子109人、女子77人の参加者があり、決勝に残ることはもとより、優勝することはとてつもなくハードルが高いと認識されている。

予選

日本からは杉本怜、山内誠、榑崎智亜、堀創、藤井快、野口啓代、野中生萌の7選手が参加した。男子選手は誰が決勝に行ってもおかしくないメンバー。女子も2人決勝入りを期待させる顔ぶれとなった。男子予選では、日本の選手5人中4人が準決勝に進むことができ、幸先の良いスタートを切った。20位と首の皮1枚で次のラウンドに進めた堀であるが、わずかに1アテンプト差のボーナスが幸いした。女子は野口が2位、いきなり今年頭角を現した野中が4位と安定した予想通りのスタートで準決勝からが本番である。

準決勝

準決勝では20番という最下位であった堀からのスタート。しかし、堀は4課題中3課題を登るといふ調子の良さを見せ、結果4位で10年来の悲願であった世界選手権決勝の切符を手に入れた。榑崎も持ち前の瞬発



力のある動きが課題とマッチし、10位と決勝には進めなかったが非常に良い登りをした。杉本は今年前半に痛めた肩が本調子ではなく、ほとんど練習できていなかったにもかかわらず、準決勝に進めただけでもよしとすべきだろう。

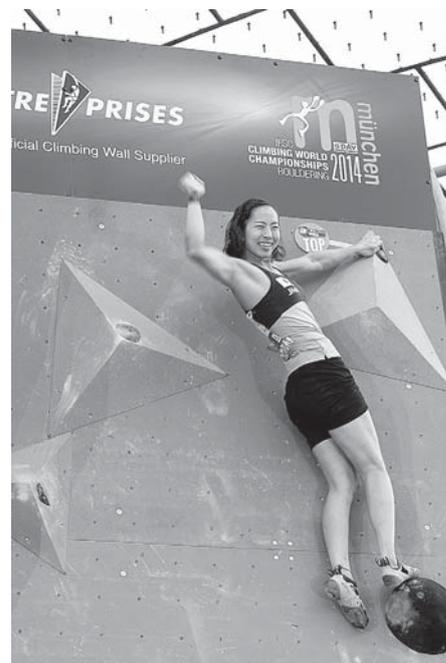
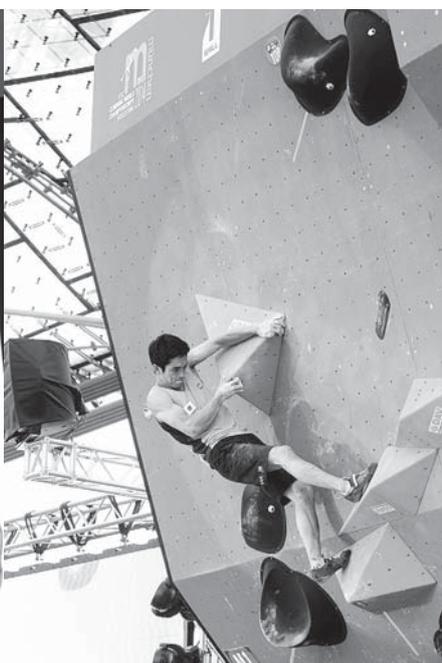
女子は野中がいつもの精彩を欠き、動きがよくない。失敗した課題でリズムを崩され、挽回することができずに決勝入りを逃してしまう。野口は危なげなく3完登を決めて2位で決勝に進出した。

決勝

決勝は世界選手権にふさわしい舞台が用意され、観客席も満員である。1課題目から明暗が分かれ、たが、幸いにして野口は一撃することができた。このまま勢いに乗るかと思いきや、2課題目で終了点まで行くものの、ムーブミスで苦しめられる。直前に登ったアレックスプッチョが難なく解決した部分を力押しで行こうとすることができず、長時間粘ってしまった。結局落ちてしまい、完登はならなかったのだがその粘りには何と



堀創選手と同選手の登り



野口啓代選手



表彰台の野口選手(右)



日本チーム

しても今年こそタイトルを取るという今までにない執念を感じる気迫のトライであった。2課題目で気持ちが切れてしまい、力も消耗してしまった野口は3課題目でも最終ホールド一手前で墜落を繰り返し、どんどん追い込まれてしまう。一方で地元ドイツのユリアネ・ブルムは快調に完登を重ねる。壁の後ろで歓声を聞いている選手たちにも試合の進展はわかるに違いない。

いよいよ最終課題は野口には明らかに本人の苦手とするタイミング系の変則ランジであった。ハリボテを渡りながら両手を順番に出すという、究極のコーディネーション系である。この種の課題ではとにかく数を出して徐々に動きの精度を上げるのがセオリーなのだが、苦手意識とともにタイトルを取り逃がしてしまった無念さが加わり、気持ちも切れてしまって終了を迎えた。それでも3位である。本来であればおめでとうという祝福されるべき立場であるが、野口の場合は勝って当たり前という周囲の期待の大きさもあり、残念な結果だったということになる。

男子の堀は1課題目からリーチ系の課題に苦しめられ、リズムを崩される。結果としては1完登もならず、6位で幕を閉じた。

最後に

結果としてタイトルを取ることができなかったが、日本の選手の層の厚さとレベルの高さを確認できた大会だと思う。代表に入れなかった選手でさえ、かなり高いレベルを持っているのが実情だ。誰が来てもおかしくない。これが私の感想である。女子に関していうと、野口、野中の二強の時代になっている。20代後半に入り、力もさることながら経験を積んだ野口にたいして若く勢いのある野中。今回は決勝に行けなかった野中であるが、もはや世代の交代は時間の問題だと感じている。

世界に目を向けてもオーストリアのアンナ・キリアンはピークを過ぎたように見える。10代の若い選手の台頭も目覚ましい。

セッターについては今回の課題は男女ともに予選から内容が非常に良かった。これほどまでに緻密に練られた課題をそろえることは並大抵のことではない。セッターの技術の高さを見せつけられた大会であった。

(記 日本代表チームチーフマネージャー／選手強化委員 千葉和浩)

第4回日中韓登山技術交流事業開催される 中国6名、韓国13名の登山者迎え群馬県谷川岳で実施

第4回日中韓登山技術交流事業が9月4日から10日にかけて中国から劉さんを団長に6人、韓国から李さんを団長に13人の参加者を迎え、東京および群馬を会場として開催された。日本からは神崎会長以下延べ60人が参加した。この登山技術交流は2011年、中国で第1回が開催されたもので、最近、3国間の交通が便利になり、相互に登山をする人が増えてきているが、それぞれの国の山岳の特徴や、登山事情、遭難救助体制などが大きく異なるため相互に交流することにより、理解を深め、技術を高めて遭難事故をなくしていこうと

いうものである。

今回は日本で遭難事故死者がもっとも多い谷川岳を会場に一ノ倉沢からのワイヤーによる救助搬送訓練や、各国のレスキュー技術のデモンストレーションを行った。

一行は4日に羽田に到着し、中国の到着が遅かったので日韓、日中わかれての歓迎会となった。通訳は韓国語と中国語が話せる塚田菜月さんをお願いした。

翌5日バスで谷川岳に向かった。土合到着、谷川岳ドライブインで昼食後、宿舎の天神ロッジに移り、三国

の情報交換会が行われた。日本からは青山遭難対策副委員長が日本の山岳事故の特徴や状況、日本における外国人登山者の事故について報告された。遭難事故に関し、両国の登山事情や生活習慣の違いなどが強く影響しており、相互理解が必要であることを痛感させられた。国立公園の管理（入山の規制、標準化された道標など）、山小屋の利用（原則日帰りで予約客のみ宿泊）、救助体制などについては韓国の方が徹底している。人口5千万人に対し登山人口が1千8百万人で、大韓山岳連盟の救助隊は17地区に分かれ、700人の隊員がいることなど「登山熱風」といわれる登山ブームの状況が良く分かった。また山岳地帯を含めほぼ全国でスマホやGPS位置情報が使用できることから現在地の特定が簡単にでき、事故発生時はスマホから119へ連絡するとその事故情報はその地区の救助関係者で共有され、もっとも近い救助者が現場へ向かうシステムが雪岳山周辺で実証実験中とのことであった。通訳は韓国語はロッジのオーナーのユンさんに、中国語は瀬山由紀さんをお願いした。

6日は前夜来の雨が奇跡的にあがり、快晴となった。デモを行う群馬県山岳連盟の救助隊は先発し、一行は新道からゆっくり一ノ倉沢に向かった。出合いで記念撮影後、ヒョングリの滝下まで登った。この日のデモはテールリッジからヒョングリ滝下まで300mのワイヤーを張り、要救助者を一気におろすものであったが、あまりの天気の良いさと一気にはいえ時間がかかるので見学者はのんびりしてしまった。

7日はマチガ沢の出会いにあるマムシ岩で各隊のデモを実施した。最初に群馬県山岳連盟の救助隊が、兩岸の間にワイヤーを張り、救助者が中間まで移動してから下降し、要救助者と一緒吊り上げ、反対岸に搬送するというデモを行った。シュルンドに落ちたり、中州に取り残された者の救助に有効である。続いて岩壁の途中の事故者の吊り上げ救助を行った。そのあと韓



東京でのフェアウェル・パーティ

国チームが林間でチロリアンブリッジのデモを実施した。川の兩岸という設定で、展張りから搬送、撤収まで行ったが、韓国チームはいろいろな局面で5分の1システムを良く使用し、良く訓練され、若いので行動がスムーズである。チロリアンブリッジは韓国の山岳救助大会の種目になっている。

最後に指導委員会の堤さんがオデッセイを用いた吊り上げ救助など4種のロープレスキューのデモを実施された。韓国、中国とも救助用のエイト環やエッジ保護具などに興味を持っていた。

8日は谷川岳登山で、西黒尾根と天神尾根に分かれて登った。さすがに天気は下り坂で視界はなかったが初秋の山を楽しみ、下山後は宝川温泉にまわり、露天風呂などさまざまな温泉に歓声をあげていた。

9日に東京に移動し、自由時間の後、歓送会が行われた。韓国、中国ともたいへん有意義であったとの感想で、特にたくさんの日本人参加者があったこと、親切にされたことに感謝されていた。日本勤労者山岳連盟、日本山岳会をはじめとする参加者以外にもたくさんの関係者が研修場所に激励に立ち寄られました。厚くお礼申し上げます。

(実行委員長 西内 博)



一の倉沢出合にて



ヒョングリ滝での搬送デモ

第71回 Mountain World

韓国隊、ガッシャブルムV峰初登頂

池田常道

バルティ語で「輝く壁」を意味するガッシャブルムは、ほんらい、バルトロ氷河の奥に威容を誇るIV峰(測量番号K3)西壁に与えられた名前であった。しかし、その連峰はもっと奥に連なる高峰(I峰、II峰、III峰)を有することから一括され、ナンバーで呼ばれるようになってしまった。最高峰(8080m、測量番号K5)には、W・M・コンウェイが1982年のバルトロ氷河探検時に名付けた「ヒドゥン・ピーク」という別名があったが、他のピークには固有の名前が与えられないまま、すべてガッシャブルムの名で通用している。

ガッシャブルムの名で呼ばれるピークは、VI峰まである。そのうちV峰(7147m)がこの夏、韓国隊によって初登頂された。アン・チヤン隊長以下4人のチームによるもので、隊長とソン・ナクジュンが南壁をアルパインスタイルで登ったものだ。コンウェイがヒドゥン・ピークと呼んだのは、コンコルディア方向から見るとI峰の大部分がこのV峰によって隠されているためだが、角度によっては頂上の一部が望める。

*

このV峰には、3つの支峰がある。東峰I(7120m)、同II(7050m)、同III(7006m)である。36年前の1978年に愛知・碧稜山岳会隊(馬場口隆一隊長ら12人)が南ガッシャブルム氷河から東面に挑んだ。一行は6400mのC3までキャンプを作り、頂上攻撃に移った。向出啓二、坂口正人、佐藤達也3隊員による第1次隊は東峰IIIで引き返し、翌日主峰目指して第2次攻撃が行われた。馬場口隊長が先頭を切り、古賀泰和、佐藤雅好ら7隊員が後を追った。ところが、後続メンバーが東峰IIIに着いてみると隊長の姿が見当たらず、搜索の結果、近くのクレバスに転落死しているのが発見された。

2年後の80年には、J=P・バルマ隊長のフランス隊が、同じく南ガッシャブルム氷河から挑んで敗退。

2010年には、キム・ヒュンイル隊長ら4人の韓国隊が西壁から挑んだ。しかし、深い雪と氷の張り付いた岩壁にてこずったうえ、ストーブの故障で調理ができなくなり、4日目に6550m地点で敗退した。キム隊長は2011年秋にネパールのチョラツェ(6441m)北壁の新ルート挑戦中に遭難死した。

2012年には、IV峰西壁を諦めたクリスチャン・トロムドルフらフランスの3人が南稜を試み、6700mで敗退した。下降中雪崩に遭ってパトリック・ヴァニオンが足首を負傷、BCから搬出される結果となった。

*

今回の韓国隊は6月13日に仁川を発ち、南ガッシャブルム氷河にBCを設けた。当初、北東壁を登ろうとしたものの、天候悪化と雪崩の危険、ルートの難しさに阻まれて6400mから引き返した。南壁からの攻撃を決意し、苦勞して反対側までBCを移動、4770mにキャンプを張った。

7月23日、アン・チヤンとソン・ナクジュンは、南壁に続く氷河を3.5km遡り、9時40分には5700m地点のベルクシュルトに達した。これを越えて11時登攀を開始。BCから一挙に1800mを稼いで、深夜、6550mのクレバスでビバークした。翌日は上部雪壁に取りかかるが、疲労と雪崩の危険を勘案してビバーク地まで戻り、体力回復を図った。翌25日は午前3時に出発、終日困難なミックス部をたどって午後7時20分、頂上に達した。暗闇の中、下降は困難をきわめた。運よく登りの足跡を発見、これに導かれて26日の午前3時45分、ビバーク地に帰ることができた。その日朝9時からの下降は、クライムダウンと懸垂をまじえて終日続き、BCに戻ったのは午後6時45分のことだった。

韓国クライマーはこれまで6座の7000m峰に初登頂してきたが、大半は遠征スタイルかカプセルスタイルだった。故キム・ヒュンイル隊長は2009年のスパンティークでそういった殻を破り、翌年ガッシャブルムV峰に挑んだ。また、アン・チヤン隊長は昨年10月に、ネパール・クーンブ山群のアンパーI峰(6840m)にアルパインスタイルで初登頂している。



ガッシャブルム山群西面。左の高峰がIV峰、V峰は写真右から2番目のピーク。

レーニン峰報告書

今回の遠征はキルギス山岳会による「マウンテンズピリットプログラム」の一環として行なわれ、日本からは鈴木百合子と大部良輔が参加した。また韓国と台湾からも2名ずつ参加者があった。

7/10 成田発。モスクワ経由でキルギスの首都ビシュケクへは7/11の早朝に着く。2人のザックがロストバゲージするが、次の便で一緒に運ばれてきて事なきを得た。ビシュケクの空港では円からの両替はできない。韓国のチームと合流し夕方の便でオシュへ移動する。買出し、夕飯を経て、快適な宿へ。

7/12の朝に台湾のチームと合流して、BCへ。BCへは車で5～6時間程度。最後の1時間半が少々悪路だが、それまでの道は舗装道路。BCは広く、旅行会社ごとに点在している。6人用テントを2人にあてがわれる。食事はお代わりもでき口に合う。この晩は多少寝苦しかった。

7/13は装備のチェックや地元の遊牧民の子に折り紙を教えたりして過ごす。7/14にBC発。荷物を半分ほどABCまで荷揚げする予定も、思いのほか遠く、ABCより1時間程度手前の渡渉した先の地点に荷物をデポして引き返す。翌7/15はレスト。7/16に残りの荷物を担いでABCへ。最初の1時間をバスに乗っけてもらい省略。そこから5時間でABC着。その日のうちにデポ品を回収。ABCもまた旅行会社毎に点在しており一番離れているABC同士は1時間以上の距離がある。BCでは4人用テントが使える、食事用のユルタがある。

7/17はレスト。7/18の9時頃にC1へ向けてABC発。なおABCのことをC1と言う人も多く、会話が噛み合わなかったことが多々あった。昼過ぎにクレバス帯を越えたあたりで下山してきたロシア人パーティーから「C1はまだ非常に遠く、日中は雪の状態が良くないからもっと早立ちしないと駄目だ」と諭され下山する。翌7/19はレストだが、大部は明け方に腹痛・吐き気・下痢に襲われる。夕方になって少し食事が喉を通る程度で1日中ダウンしていた。7/20、体調はいくらか回復したのでC1へ11時間以上かけて登る。7/21にC2へ。鈴木は体調が悪く途中で引き返した。C2はラズジェリナヤ峰への急登を登りきってすぐのところにあった。7/22にABCに下山。その後2日間はレスト。

7/25、C1へは体調がよかったので大部は4時間半で着いた。7/26、C2を目指す但鈴木の調子がいまい

ちなのでC1でレスト。7/27、C2まで3時間30分。快適なテン場跡に幕営。7/28明け方は強風と視界不良のため出発を見送る。7時頃に外を覗くと晴れ間が出てきたので、大部単独でアタックに行くことに。ところどころ赤旗がありトレースも薄くあるが、尾根は広くなだらかである。出発後はまた風が強まり、視界も悪化してきたのでフィックスロープがある地点で引き返す。この日はC2に留まる者は少なく皆下山して行ったが翌日に賭けて幕営することにした。ただこの判断は甘く、深夜は暴風雪で雪かきを何度か強いられた。7/29風は強いが視界が開けた時を狙ってテントを撤収してC1へ下山。C1のテントはそのままでABCへ。3日有ればABCから山頂を踏みBCに下山できると思ったので、7/30にまた大部単独で直接C2を目指す但、さすがの疲労と悪天でラズジェリナヤ峰のホル手前で泣く泣く諦め下山する。

7/31、BCへの下山に際しては馬を手配してもらい荷物の大半を持ってもらう。BCからは山頂は雲の中で見えない。8/1にオシュへ、8/2にビシュケクへ、8/3にモスクワへ発ち8/4に無事帰国した。

レーニン山のBC・ABCはともにしっかりと整備され、快適である。今回も登山だけでなく街での移動や宿の手配もキルギス山岳会にいただいた。また技術的に難しいところは特にない。そのため、日本ではメジャーでは無いが、ロシアを始めとしたヨーロッパから多くの登山者を迎えていた。ただ単純に登山という行為のみを楽しめる場所である。初めての高所であったが順応が上手くいき体調が非常に優れていただけに1日遅れで悪天に捕まってしまったのが非常に残念である。最後にキルギル山岳会の方々をはじめ、今回の遠征でお世話になった方々に感謝いたします。

(記 大部良輔)



ABCからC1へのクレバス帯に行く鈴木

K7 遠征報告

メンバー：横山勝丘 (35)、増本亮 (35)、長門敬明 (35)

コック兼ガイド：イサ・フセイン

リエゾン・オフィサー：アルシャット・ムハンマド

期間：2014年7月4日～8月15日

山域：パキスタン、チョラクサ谷 K7山域

キャラバン日数：2日間(フーシェ 3200m～サイ
チョー 3600m～K7BC4200m)

目標：K7 WEST (6631m) へ、南東稜よりの新ルート
登攀～登頂。

結果：K7 WESTの山頂は到達しなかったが、手前の
バダルピーク (6100m ぐらい、未踏) までは新ルート
からのクライミングを果たせた。

ルート名：SOUTHEAST RIDGE (南東稜)

グレード：5.11d C1 M5 60° 58p

日数：4泊5日(7月30日～8月4日)

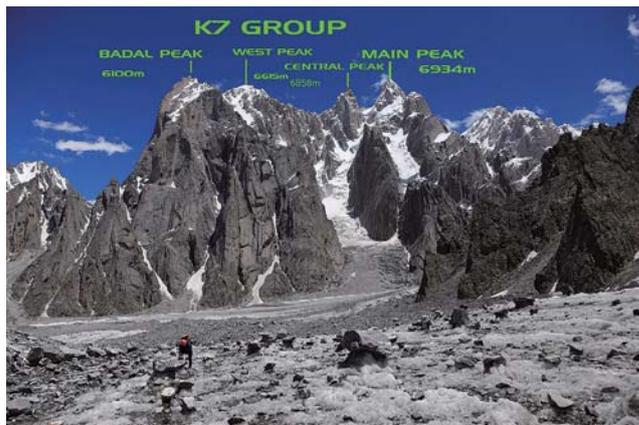
下降：20p バダルピークとK7WESTの稜線上の西面
より、岩と氷を使って下降。

順化：SOLU PEAK (約5900m)、3泊4日(BC4200m
～①4800m～②5900m～③4800m～BC) 外的
危険が少なく、短期間で済んでしまう順応に適した
山だった。BC近辺情報：砂地のBC地で、快適。ボル
ダーが無数にあり、クライミング天国。5000m級の
マルチも多数あり。

登攀報告

① 8 p の F I X 作業。6本のロープをつなげて、取付ま
で下降。BCで数日のレスト後にアタック。

② アタック1日目、BC (4200m) 出発 am4:00～取
付5:00 (4300m)～ユマール～F I X 最高点から
(4本のロープをホールバックに詰めて、取付方向
へ捨てる)、クライミングスタート。リッジ上の弱点



K7グループ

をついて登り、コンテを交えて夕暮れまじかに快適
なテラスを発見。整地後19:00に幕営。1回目のビ
ヴァーグ地(5300m)

③ 2日目、リッジを右へ左へ、時には懸垂で降りたり、
複雑な尾根をなんとか越えていった。途中、積木
のような触っただけで崩れる個所を、慎重に越え。夜
のとぼりが下りる頃に、テントサイトを発見(21:
00)。今日も快適なテラスで就寝。2回目のビヴァー
グ地(5600m)

④ 3日目、朝から複雑なリッジを紐解いていくが、進路
を絶たれたように行きづまった。リッジ上の正面に
傾斜の強い岩塔がそびえ立ち、クラックが途切れて
いた。他には登れそうな個所もなくはないが、時間を
浪費しそうだった。許される時間と、食料、体力、天
気などを考え、正面突破にかけた。すべてのギアと、
祈るような思いで取付いたら、岩が導くように、シン
クラックが続いていた。エイドアップしながら核心
をこえた。その後はミックス帯で、アックス、クラム
ポンに履きかえ、雪の斜面で終了。3日目のビヴァー
グ地5900m



バダルピークのルート



BCでのボルダリング

⑤曇りがちだが、先を急ぐ。雪がばらつき、いつの間にか吹雪いてきた。数回の登下降ののちにバダルピーク(約6100m)の山頂に到達。冷え込みもあり、すぐにテントサイトを探して先を急ぐ。バダルピークとK7WESTへの稜線上で幕営。計画上だと4泊5日で山頂を踏んで、明日には下降に移っているところだったが、見積もりの甘さと、この先の困難さを天秤にかけ、ここまでとした。

⑥K7の西面からの下降は、セラックを避けての雪と氷をつなげた下降となった。パキスタンの夏の気温は高く、今年も晴天率がよく、結氷の具合を気にしていたが合計20回のアバラコフ懸垂と岩角を巧みに利用して下ることが出来た。着地点からBCまでは2時間の徒歩でそれほどの危険もなく、アプローチの条件も整った山域だった。



山頂には立てなかったが、長大なリッジのクライミングでの困難性と、未知な領域を解明する楽しみ、先の読めない複雑さに揉まれた4泊5日だった。

(記 長門敬明)

位置探知機「ヒトココ」の貸出

日本山岳協会山岳共済会では、共済会の独自事業として位置探知機の貸出を始めます。

オーセンティックジャパン社が開発した「ヒトココ」は、携帯電話の技術を応用した新しい位置探知機です。軽い、探知距離が長い、電池寿命が長い、個別識別ができるなどの特長を持っています。

親機1台に子機20台が登録でき、子機が親機から一定距離離れるとアラームが鳴る機能があるので、集団登山などや講習会などで参加者を把握するのに使用で

きます。

また、行方不明者の探索時には、エリアを分けて複数の親機で探すと早く発見できます。

親機40台、子機60台をレンタル導入しました

ので、各岳連(協会)で検証や訓練を体験していただきたいと思います。集団登山や講習会を想定した検証・訓練には親機2台、子機4台5セットで貸出ます。その他の検証・訓練には親機2台、子機2台15セットで貸出ます。



各岳連(協会)での検証・訓練には無料で貸出ます。お申し込みは、日山協事務局まで。

新刊図書紹介

『ウェストンが来る前から、山はそこにあった』

地元目線の山岳史 菊地俊朗 著

50年前、1964年東京オリンピック前の春ギャクションカン登山に報道記者で同行し登頂記「栄光への挑戦」(二見書房)書いた著者は、退職後山岳ジャーナリストとして「山の社会学」、「北アルプス百年」、「釜トンネル—上高地の昭和史」、「白馬岳の百年—」などを次々と出版する。

日本登山界で頻繁に使われる「近代登山」という言葉に違和感を覚えた著者は「日本でも“近代登山の父”W・ウェストンの登山”のずっと前から『山登り』はされていたではないか」と信州の学校登山から解きほぐし8章建ての新刊本書で異を唱える。

46版、並製、278頁、定価1300円+税、2014年8月6日初版発行、信濃毎日新聞社刊



想像をはるかに超える“保温力”
超肌着力

【提言】その4 登山届は必要ですか

大阪府山岳連盟理事長 飛田 典男

山での遭難事故の分析で多くの方々が事故を起こした約8割の登山者が登山計画書(登山届)を提出していなかった。と、嘆いている。敢えて、「登山届は果たして必要なのか」を問うてみたい。お断りしておくが、ここで取り上げるのは「計画書」ではなく、「登山届」であることを理解しておいて頂きたい。かなり以前だが「下山届は不要です。」と言われた時に少なからず驚きを覚えたことを忘れない。つまり、登山届は事が起きてからの後追い情報としてのみにしか活用されていないという事である。それでも搜索の糸口としては有力な情報であることは間違いない。でも、これではあまりにも消極的過ぎる活用方法ではないだろうか。サポート体制を持つ山岳会ならいざ知らず、これを期待できない大多数の登山者にとって、登山届がどれ程の価値のあるものとして理解していただけるだろうか。これはあまりにも穿った、もの言いと誹りを受けることは承知である。もし、登山届を出すことにより通過ポイントで確認が取れるようなシステムが構築されていたとしたらどうだろうか。常時登山者の位置情報が追跡出来るようになっていたならどうだろうか。登山者の持つ端末が常にレーダーの様なもので捉えることなど近い将来に可能となるはずである。現にトランシーバーでお互

いの位置情報を確認できるものまで製品化されている。近未来のことはさて置いて、現状でも少々原始的ではあるが出来ることはある。単独登山者の見守システムの構築である。届けられている情報から予定下山日時を過ぎても下山連絡が入らない場合はサポートシステムが機能する仕組みである。高齢者の独居、晩婚化などシングルのライフ・スタイルが顕在化しつつある状況を考慮したバックアップ体制の構築である。これは反面単独行者を助長する結果に結びつく恐れもあるので、この面のケアをする必要がある。この見守システムは共済会制度と抱き合わせでも良いと思う。山岳保険加入時に登録(年間1万円程度が値ごろ感か)し、入山する際にインターネットで所定の内容をメール等で連絡してもらうのである。このシステムへの理解が深まればビジネスとして十分に採算が期待できると考える。

登山届不要論を述べている様で心苦しいのだが、逆説的に検証してみると問題が浮き彫りになってくる。登山届が入山で提出されない理由にはメール等で済ましているケースも多いと考えられるが、最大のポイントは入山者の意識が山を近郊の公園の延長上として捉え登山の意識が無いことに起因していると考えられる。それなら、道迷いしないような散策コースの整備を行い登山とは峻別したものとすべきなのではなかろうか。登山と散策を明確に識別したコース設定を地元の方々と共に練り上げるのである。



平成26年度9月(26年9月)
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成26年9月11日(木)
常務理事会:17時30分~18時50分
連絡部会:19時~20時50分
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者
常務理事会:神崎会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、京才、水島、瀧本各常務理事、中島監事(理事9名、監事1名出席)、委任:國松副会長、西内・仙谷・青木常務理事
連絡部会:相良、西原、山本各委員長(委員長8名中3名出席)、委任:増山・石倉・澤田・北山・角田委員長

1. 議事

- (1)平成26年度8月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)世界ユース選手権大会への派遣について(承認)
- (3)世界選手権(パラ)の追加派遣選手について(承認)
- (4)アジア選手権大会への派遣について(承認)

- (5)全日本ユースボルダリング選手権大会の実施について(平成27年度事業計画で検討することを承認)
- (6)アイスクライミングウォール施設設置要請について(施設設置の要請は、先ず地元の埼玉県山岳連盟からすべきではないか、と言う事で議案は、差し戻された)
- (7)報告
ア 会計月次
イ 日中韓技術交流研修会について
ウ 第17回JOCジュニアオリンピックカップにおける選手登録違反について
エ 長崎国体九州ブロック大会参加資格違反について
オ 岩手国体山岳競技施設認定申請の承認について
カ 鹿児島国体正規視察報告書について
キ 第69回長崎国体組合せについて
ク IFSCクライミングWC印西2014大会の準備状況について
ケ 第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会について

コ 安全登山実践講座の開講準備状況について

2. 役員等の派遣について

- (1)世界ユース選手権 9月18日(木)~25日(木) 於:ニューカレドニア 小日向団長他選手16名
- (2)アジア選手権 10月1日(木)~3日(金) 於:インドネシア・ロンボク 是永敬一郎選手ら7名
- (3)平成26年度中間監査 10月8日(木) 於:岸記念体育会館 内藤・岡本・中島監事、尾形専務理事、小野寺常務理事、相良理事
- (4)IFSCクライミングWC印西2014実行委員会 10月8日(木) 於:松山下公園総合体育館森下常務理事、北山・山本委員長
- (5)1964年東京オリンピック・パラリンピック50周年記念祝賀会 10月10日(金) 於:パレスホテル東京 神崎会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事
- (6)第53回全日本登山体育大会 10月11日(土)~13日(月) 於:徳島県・剣山周辺 神崎会長、八木原副会長、尾形専務理事、仙石常務理事

- (7)UIAA総会 10月16日(木)～20日(月)
於：米国・アリゾナ・フラグスタフ
小野寺常務理事
- (8)第69回長崎国体山岳競技大会 10
月16日(木)～19日(日) 於：長崎県大
村市 神崎会長、佐藤副会長、森下
常務理事、西原・北山・山本委員長
- (9)IFSCクライミング印西2014
10月25日(土)～26日(日) 於：千葉県
印西市松山下公園総合体育館 神崎
会長、八木原・佐藤副会長、尾形専
務理事、森下・京才常務理事、西原・
山本・北山各委員長

3. 後援、協賛等の依頼について

- (1)「第22回日本山岳耐久レース(24時
間以内)一長谷川恒男CUP」後援名
義使用について(東京都山岳連盟主
管)(回答済の報告)了承

4. 報告

- (1)指導員の認定承認
①AC上級指導員 小関芳、小林広幸
(以上、大阪)、明上邦彦(香川)、以
上、3名を承認

5. 専門委員会動静

8月常務理事会以降(8月7日～9月10日)

【報告】

- (1)国際委員会
8月12日(火) 出席者8名
ア 登山部統合準備委員会の報告
イ ロシアの女性クライミングフェス
ティバルについて
ウ 海外登山懇談会について
・11/6(木)、国立オリンピック記念青
少年総合センター
・講師：橋本しをり、柏澄子
オ 日中韓技術交流研修会の協力について
カ JAC海外委員会の「富士山国際交
流登山」合同開催依頼について
キ 海外登山奨励金制度の公募広報について
(2)競技部合同委員会 8月21日(木)
出席者12名
ア 7月常務理事会報告
イ 世界選手権(パラ)の神経障害部
門への選手派遣について
ウ JOCジュニアオリンピックカップの
年齢不正出場の処分について
エ 第69回長崎国体の最終確認について
・ボルダリング競技ルートセッター変更の件
・組合せ抽選会出席者、資格審査等作
業手順
・共通規則第7章審査の指針第33条
の扱いについて
オ 第70回和歌山国体の実施要項作
成にかかる監督資格の特例について
カ 第71回岩手国体競技場施設認定
申請書について
キ 日体協指導者更新義務研修について
ク 第5回全国高等学校選抜クライミ
ング選手権大会実行委員会について

- ・8/31 15時～、幕張総合
ケ 競技部会議(9/6)の検討事項について
サ IFSCクライミング印西2014実行
委員会報告
シ 第17回JOCジュニアオリンピック
カップ報告
・8/2～4、南砺市桜が池CC、参加
者総数220名
ス 全国ルートセッター研修会報告
・8/5～7、南砺市桜が池CC、参加者12名
セ 第58回全国高等学校総合体育大
会登山大会報告
・8/6～12、神奈川・箱根周辺
(3)自然保護委員会
8月21日(木) 出席者10名
ア 7月常任委員会議事録確認
イ 山岳団体自然環境連絡会(7/31)報告
・国際山岳自然保護会議の運営について
・トレラン入域料について
ウ ニュースレター(夏号)の発行(8/1)
について
エ 第38回自然保護委員総会について
オ 第39回自然保護委員総会開催地
(福島)について

- カ 自然保護指導員育成出前講座について
キ 第3回関東地区自然保護交流会の
準備について
ク 指導員の引きの配布について
ケ 登山部統合準備委員会の報告
(4)遭難対策委員会 8月25日(月)
出席者8名
ア 無雪期レスキュー講習会について
・常任委員の役割分担
イ 日中韓技術交流研修会について
・参加者及び日程・宿泊・移動等の手配
ウ UAAA創立20周年記念総会への
協力について
(5)選手強化委員会
8月26日(水) 出席者7名
ア 世界選手権(パラ神経障害部門)
派遣追加選手について
・前田あゆみ、吉田藍香選手を承認
イ 国際大会選手登録料について
・2万円(状況によっては追加徴収有り)
ウ 国内ユース合宿について
・1/4(日)～7(水)、静岡県浜松市スク
ェアクライミングセンター(クライ
ミングJMA2)

寄贈図書

寄贈本	北海道山岳連盟	「小樽赤岩クライミングガイド」赤岩ガイドブック作成協議会
	日本山岳写真協会	「美山彩嶺 II」
雑誌	山と溪谷社	『畦地梅太郎版画集「山男」』畦地梅太郎 作
	山と溪谷社	「第14世マタギ 松橋時幸一代記」甲斐崎圭 著
	福島県山岳連盟	創立60周年記念誌 すべての峯に憩いあり
	(公財)日本体育協会	「現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか」菊幸一編 著
	山と溪谷社	「ROCK & SNOW」065
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.808 2014 October
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第567号
	NPO日本トレーニング指導者協会	「J A T I E X P R E S S」Vol.42
	モンベル	「OUTWARD」No.65
	京都府体育館	「京都府体協時報」No.116
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.437
	中華民国山岳協會	「中華山岳」242
	横浜山岳会	「月刊山」987号
	福岡山の会	「せふり」No.364
会報	(公財)東京都スポーツ文化事業団	「SMILE SPORTS」2014年9月 vol59
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」2014.10-11
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBCニュース」第514号
	三峰山岳会	「岩つばめ」No.345
	スポーツこころのプロジェクト運営本部	「スポーツこころのプロジェクト新聞」第7号
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」Vol.15
	(公財)日本体育協会	「スポーツニュース・フェアプレィニュース」2014年9月8日号
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne360」settembre2014
	Korean Alpine Federation	「Korean Alpine News」Vol.08 JUL.2014
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.299
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.189
	中国登山協会	「山野 中国戸外」2014.9
	日本消防協会	「命を守る地域防災力」
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.476
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.214
	Corean Alpine Club	「山」Vol.238 2014SEP-OCT
(公社)日本山岳会	「山」No.832	
東京野歩路会	「山嶺」No.1015	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.658 '14.10	
(公財)尾瀬保護財団	「はるかな尾瀬」Vol.25	
日本山岳遺産基金	「日本山岳遺産基金ニュース」Vol 6	
横浜山岳会	「月刊山」988号	
日本ヒマラヤ協会	「ヒマラヤ」No.470	

- ・指導者：木村伸介チーフ他コーチ小委員会が担当
- ・選手：ユース強化指定選手の希望者
- エ ユース強化指定選手の選考について
- オ IFSCクライミング印西2014大会のマネージメントについて
- ・担当：千葉、安井
- カ アジア選手権のマネージャーについて
- ・水村信二(明大教授)の派遣を承認
- キ アジア選手権出場希望選手について
- ・羽鎌田直人選手を否認
- ク IFSCクライミング印西2014大会選手交代について
- ・竹内彩佳選手の辞退に伴い大澤咲子選手を繰り上げることを承認
- (6)ジュニア・普及委員会
8月29日(金) 出席者4名
- ア ジュニア登山教室in立山2014の反省
- イ 中高年安全登山指導者講習会(東部・西部地区)について
- ウ 第53回全日本登山体育大会について
- (7)指導委員会
9月1日(月) 出席者13名
- ア 8月委員会議事録の確認
- イ 8月常務理事会報告
- ウ 常任委員研修会報告
- ・8/23~24、神奈川県山岳スポーツセンター、参加者13名
- エ 登山部統合準備委員会報告
- オ 指導委員会保有装備の保管状況について
- カ SC指導員養成講習会実施申請について
- ・11/15~12/7、大分
- キ 日中韓技術交流研修会の協力について
- ク 登攀技術研修会(岡山)について
- ケ 安全登山実践講座について
- コ 指導員認定申請について
- ・AC上級：大阪再申請(書類不備につき再々申請依頼)、明上邦彦(香川)専門科目認定
- サ 上級指導員養成補講
- ・受講者：河地(実技合格)
- シ 規約・規程集の訂正について
- (8)競技部合同委員会
9月6日(土) 出席者16名
- ア 選手資格違反について
- ・JOCジュニアオリンピックカップにおける事案
- ・第69回長崎国体九州ブロックにおける事案
- ・選手登録規程の改定検討
- イ 第69回長崎国体の最終確認

- ・組合せ抽選会について
 - ウ ブロック別研修会実施要項(案)について
 - エ 日体協公認スポーツ指導者更新義務研修について
 - オ 「未成年競技者におけるドーピング検査実施に関し親権者同意書の取得」について
 - カ 第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会実行委員会報告(8/31,幕張総合)
 - キ IFSCクライミングWC印西2014実行委員会報告(9/6,岸記念体育会館)
 - ク 第75回鹿児島国体正規視察報告(9/2,京オ、西原)
 - (9)国際委員会
9月8日(月) 出席者12名
 - ア 登山部統合準備委員会報告
 - イ 日中韓技術交流研修会報告
 - ウ 海外登山懇談会について
 - ・11/6,国立オリンピック記念青少年総合センター
 - エ JAC「富士山国際交流登山」について
- 6. その他の重要事項**
(8月6日~9月10日)

[報告]

- (1)JOC法人設立25周年記念の集い
8月7日(木) 於：スポーツマンクラブ 尾形専務理事
- (2)第58回全国高等学校総合体育大会登山大会視察 8月6日(水)~8日(金) 於：神奈川県・箱根 國松・佐藤副会長、小野寺・京オ・水島・瀧本常務理事、中島監事
- (3)第58回全国高等学校総合体育大会登山大会 8月7日(木)~12日(火) 於：神奈川県・箱根 神崎会長、森下、青木常務理事
- (4)ジュニア登山教室 in 立山2014 8月17日(日)~20日(水) 於：国立立山青少年自然の家ほか 神崎会長、本木顧問、西内、仙谷、青木常務理事
- (5)IFSCクライミングWC印西2014実行委員会 8月20日(水) 於：印西市松山下公園総合体育館 森下常務理事、北山委員長
- (6)世界選手権大会(ボルダリング) 8月21日(木)~23日(土) 於：ドイツ・ミュンヘン 千葉和浩監督他選手7名
- (7)国体運営員養成特別研修会 8月24日(日) 於：岩手県盛岡市 滝内

常任委員

- (8)地域防災力充実強化大会
8月29日(金) 於：東京国際フォーラム 尾形専務理事
- (9)福島県山岳連盟創立60周年記念祝賀会 8月30日(土) 於：福島グリーンパレス 尾形専務理事
- (10)登山部統合準備委員会 8月31日(日) 於：岸記念体育会館 八木原副会長、西内・仙石・瀧本・青木常務理事、北村理事、石倉委員長
- (11)第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会実行委員会 8月31日(日) 於：千葉・幕張総合 森下常務理事
- (12)鹿児島国体正規視察 9月2日(火) 於：鹿児島県南さつま市 京オ常務理事、西原委員長
- (13)日中韓技術交流研修会
9月4日(木)~10日(水) 於：群馬県・谷川岳ほか 神崎会長、八木原副会長、小野寺・西内常務理事
- (14)日本山岳写真協会創立75周年記念式典祝賀会 9月6日(土) 於：東京・上野精養軒 八木原副会長
- (15)長崎国体組合せ抽選会 9月7日(日) 於：岸記念体育会館 尾形専務理事、森下・京オ常務理事、西原・山本委員長
- (16)世界選手権(リード、パラ) 9月8日(月)~14日(日) 於：スペイン・ヒホン リード：千葉監督他選手8名、パラ：北山・鈴木監督他選手10名、コーチ・サポート3名
- (17)山岳団体自然環境連絡会 9月11日(水) 於：労山事務所 石倉委員長、徳永・松隈副委員長

編集後記

御嶽山が噴火、行楽シーズンを迎えたばかりの登山客を襲い多数の遭難者が出た。亡くなられた方には心より哀悼の意を表します。被害の全容はこれからだが、行方不明を含め未だ遭難者数の把握が出来ないのは、計画書未提出者も原因では。昨年の統計で全遭難件数のおよそ2割しか届がない。登山界は登山届の義務化を検討すべき時期に来ているのでは。

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第547号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成26年10月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和四峠「時の茶屋」 TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会会長 杉本憲昭

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。
山岳保険の加入は登山者のマナーです。

■平成 24 年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成 25 年 6 月 13 日)

発生件数 **1,988** 件 (前年対比 158 件増)

遭難者数 **2,465** 人 (前年対比 261 人増)

死者・行方不明者 **284** 人 (前年対比 9 人増)

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
U R L : <http://sangakukyousai.com>

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”^{やま}を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格1冊

680円

(税込734円)

年間購読12冊

7,480円

(税込8,078円)

12冊 8,160円
のところ

▶680円おトク!

年間購読
特典



岳人オリジナル
マグカップを
プレゼント!



「岳人」11月号

11月号
10/15発売

【特集】岳人列伝① 加藤文太郎

【好評連載】夢枕 獺「[神々の山嶺]創作ノート」
／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」
岳人プロフィール／秘境探訪／新名山行 ほか

★モンベルのウェブ
サイト、全国のモン
ベルストアや書店
にて発売中!

年間購読
お申し込み方法

●ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp>

●お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

●全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



安心を売る仕事。

嵐の日でも 晴れの日も。
つらいときも うれしいときも。
わたしはあなたを見守っています。

わたしがあなたに
売っているのは「安心」です。

安心できれば 挑戦できます。
だからあなたは
夢に向かって
進みつづけてください。

どんなことが起きても
わたしはあなたの味方です。

MS 私は
agency 三井住友海上の
代理店です。

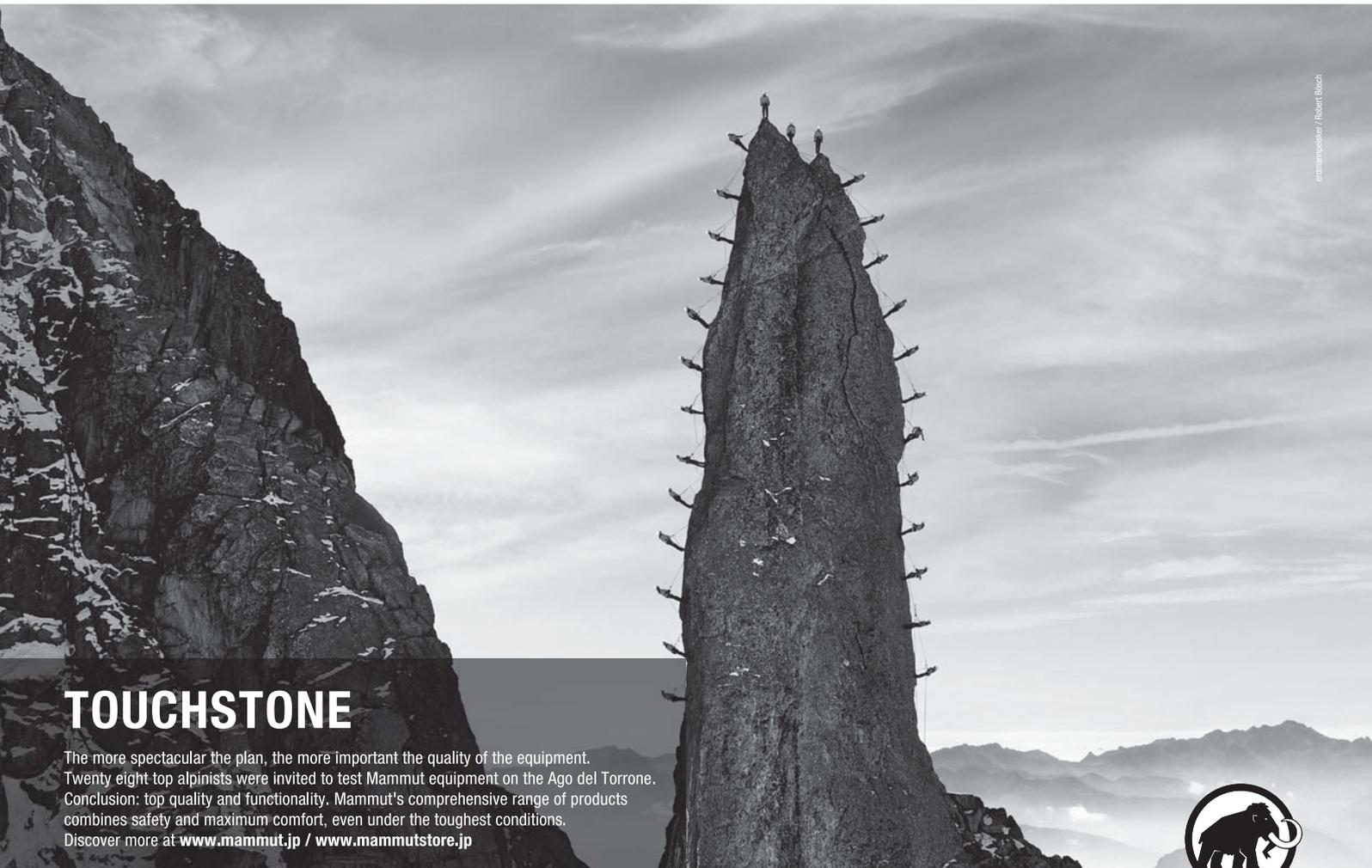
www.ms-ins.com

魚沼の酒



八海醸造株式会社

新潟県南魚沼市長森1051番地
www.hakkaisan.co.jp

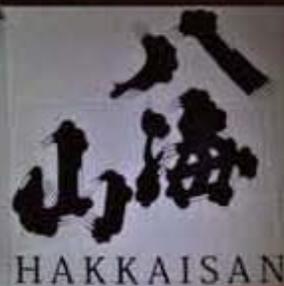


TOUCHSTONE

The more spectacular the plan, the more important the quality of the equipment. Twenty eight top alpinists were invited to test Mammut equipment on the Ago del Torrone. Conclusion: top quality and functionality. Mammut's comprehensive range of products combines safety and maximum comfort, even under the toughest conditions. Discover more at www.mammut.jp / www.mammutstore.jp



IFSC CLIMBING WORLD CUP INZAI 2014



IFSC CLIMBING WORLD CUP



World of
Keep
Climbing

主催：IFSC、(公社)日本山岳協会

SPONSORED BY HAKKAISAN & MAMMUT

10/25,26

千葉県印西市松山下公園総合体育館

#北総線千葉ニュータウン中央駅、成田線木下駅よりシャトルバスあり

10/25：女子予選 9：30～ / 男子予選 13：30～
10/26：男女準決勝 9：30～ / 男女決勝 15：30～

※スケジュールは変更される場合があります。

後援：文部科学省
(公財)日本体育協会
(公財)日本オリンピック委員会
千葉県教育委員会
(公財)千葉県体育協会
毎日新聞社
印西市
印西市教育委員会
印西市体育協会
北総線沿線地域活性化協議会

協力：千葉県山岳連盟

協賛：三井住友海上火災保険(株)

特別協賛：



DJ：Jazy Sport Crew

■チケット 25日 - 1000円、小学生以下 - 無料
26日 - 2000円、小学生以下 - 500円、2日間通し券 - 2500円

<http://www.wc-inzai.jp/>

